

とちぎ女性チャレンジ応援事業【栃木県】

個別事業費	4,391 千円
交付金額	2,196 千円

地域の実情と課題

- 男性の非正規労働者の割合23.1%に対し、女性の非正規労働者の割合は54.3%と、女性の非正規雇用割合が高い。
- 所定外労働時間の全国平均120時間に対し、本県は130時間と、長時間労働の傾向が見られる。
- 女性の有業率において、正規雇用労働者の比率が20代前半をピークに低下を続ける「L字カーブ」現象が生じている。
- 県内企業における育児休業制度整備率87.0%に対し、男性の育児休業取得率は38.5%に留まり、女性の活躍やワーク・ライフ・バランスへの理解が進んでおらず、男性が育児休業を取得できる環境になっていないことが考えられる。

事業の特徴

- 女子中・高校生等と理工系分野の企業等で活躍する女性との交流会の開催や、女子高校生・大学生を対象とする理工系企業訪問の実施により、理工系分野への興味関心を醸成し、理工系分野へ進路選択する女性の増加を図る。
- 夫婦で共に子育てを担う重要性や家族の未来に即したマネープラン等について学ぶ機会の提供を通じて、男性の家事・育児参画を促進し、女性の働きやすい環境の整備及び女性の家事・育児に係る孤立化防止を支援する。
- 事業の効率的・効果的な実施方法を学ぶ研修等の実施や実践活動に係る活動経費の助成を通じて、地域活動に参画する女性の裾野拡大及び女性が主体的に活動する地域団体のスキルアップやネットワーク拡大を図る。

事業の効果

- 参加者アンケートでは9割が「理工系分野への関心が高まった」と回答しており、女子中・高校生等の理工系分野への進路選択の意識醸成に寄与した。
- 夫婦間の相互理解の深化のほか、家族の将来や子育てについてより深く考える契機となり、夫婦で子育てを担う意識の醸成や、男性の家事・育児参画に向けた意識改革の促進につながった。
- 地域で女性が主体的に活動する団体のスキルアップのほか、団体同士の交流によるネットワーク拡大に寄与した。

目的・目標

様々な視点から女性のチャレンジを応援し、女性の就業率や男性の育児休業取得率の向上を図る。

【事業目標】

- 女性の就業率：40.0%（R7年度末）【実績：36.8%】
- 男性の育児休業取得率：45.0%（R7年度末）【実績：49.5%】
- とちぎ女性活躍応援団の登録企業数：1,600社（R7年度末）【実績：1,655社】
- 男女生き生き企業認定企業等数：400社（R7年度末）【実績：363社】

【事業KPI】

- 各講座の参加者数：計94名・6団体（R7年度末）【実績：計154名・6団体】

連携団体

【連携体制】

とちぎ女性活躍応援団

【構成団体】

登録企業（R7年度末：1,655社）

【運営団体】

栃木県経営者協会、栃木県経済同友会、栃木県商工会議所連合会、栃木県商工会連合会、栃木県中小企業団体中央会、日本労働組合総連合会栃木県連合会、栃木県医師会、栃木県看護協会、栃木県社会福祉協議会、栃木県農業協同組合中央会、栃木県農業者懇談会、栃木県林業振興協会、栃木県建設産業団体連合会、栃木県トラック協会、栃木県自治会連合会、栃木県女性団体連絡協議会、大学コンソーシアムとちぎ、足利銀行、栃木銀行、下野新聞社、日本放送協会 宇都宮放送局、栃木労働局、栃木県市長会、栃木県町村会、とちぎ男女共同参画財団 等

今後の課題

- 交流会、企業訪問ともに定員を超える応募があったことを踏まえ、より多くの方に参加機会を提供できるよう開催回数や参加人数などの検討を要する。
- 受講者のニーズの把握及び講義・ワーク内容への反映のほか、受講者の増加に向けた周知方法の精査を要する。
- 実践団体への応募・選定地域に偏りがあることから、広報手法の検討を要する。

とちぎ女性チャレンジ応援事業

理工系分野における女性活躍促進事業

- ・女子中・高校生とその保護者及び教員を対象に、理工系分野の企業等で活躍する女性との交流会を開催
- ・女子高校生・大学生とその保護者を対象に、企業訪問による研究・技術開発活動の見学等を実施



とも育て応援講座

夫婦がともに子育てを担う重要性や、家族の未来に即したマネープラン等について学ぶための講座を開催

とちぎ地域女性活躍実践塾

県内を事業対象エリアとし、かつ実施責任者が女性である事業を实践する団体を対象に、事業の効率的・効果的な実施方法を学ぶ研修や実践活動に係る活動経費の助成などを実施